※令和４年度以降入学生用

学校番号	１００５

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	（学）日本史（中世）	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	日本史探究『詳説日本史』（山川出版社）						
副教材等	「新詳日本史」（浜島書店）、「改訂要点整理ゼミナール日本史」（浜島書店） 教員作成プリント						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史的事象の前後関係、流れに思いをいたす。
・世界（特にアジア）の国々や諸地域の状況にも注意を払い、日本の歴史事象との関連を考える。
・歴史の流れのなかで現在の日本のあり方を位置づける。

２　学習の到達目標

（１）日本の中世史に関する基礎的な知識を身に付ける。
（２）問題演習や史料読解を行い、支配体制の変遷と地理的条件から歴史的事項を考察する力を養う。支配体制の変遷を背景として文化の担い手が移り変わることに留意し、特色ある文化が形成されたことについて認識を深める。
（３）授業で身に付けた知識、思考力を活かし、中世史に興味関心を持ち、我々の生きる現代社会と中世史とのつながりを感じることができるようになる。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	中世を中心とする日本の歴史についての基本的な史実や歴史用語・概念についての知識を、地理的条件や世界史と関連づけながら理解している。また、様々な史資料から、有用な情報を選択し、読み取ることができる。図表などにまとめたりする技能を身に付けている。	我々の生きる現代の諸課題を授業で学んだ歴史的観点から考察し、世界と日本社会の変化に関する科学的な認識をもとに冷静かつ公正な判断をくだせるか。また、その思考の過程や結果を適切に他者に対し、表現している。	国家・社会を形成する主権者としての責務を果たそうとする意欲があり、歴史的事象や社会的な諸関係に対する関心と課題意識を持ち、課題を意欲的に追究、解決しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	院政と武士の躍進　・　武家政権の成立	・院政の始まり ・院政と平氏政権	a：貴族政治や土地制度の変容などをもとに、諸資料から得られる情報を適切かつ効果的に調べてまとめ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。平氏政権の台頭とその背景、宋との交易などについて、諸資料から様々な情報を読み取り、武士の政治進出について理解している。 b：武士が台頭する契機や、この時期の土地制度の仕組みなどを考察し、古代から中世への時代の転換について根拠を示して表現している。武家政権の権力基盤となる武士の土地所有に至る変化を考察し、歴史における土地の支配や所有がもつ意味について多面的・多角的に考察し、表現している。 c：中世社会の特色について多面的・多角的に考察することを通じて、時代を通観する問いを表現し、追究しようとしている。古代との比較などを通して、中世では同じ時期に政治的な力をもつ勢力が複数存在していたことなど、中世の特色を探究しようとしている。	定期考査	定期考査	プリント・ワークシート
		・鎌倉幕府の成立 ・武士の社会	a：諸資料から情報を読み取り、源平争乱から鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などについて理解している。承久の乱が幕府と朝廷との関係に与えた影響について、諸資料から適切に情報を読み取り、理解している。 b：幕府と朝廷の二元的支配構造の特色について、諸資料から得られた情報をもとに、根拠を明確にして表現している。武家と公家の関係の変化が土地の支配に及ぼした影響を考察し、根拠を明確にして表現している。 c：鎌倉幕府の成立過程や封建制度の形成に関する課題を主体的に追究し、前の時代とのつながりを見出そうとしている。公武関係の変化による武家政権の展開に着目し、鎌倉時代を通じた武家の支配の特質について主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査	プリント・ワークシート

※令和４年度以降入学生用

２学期	武家政権の成立 ・ 武家社会の成長	・モンゴル襲来と幕府の衰退 ・鎌倉文化	a：宋・元などユーラシアとの交流に着目して、モンゴル襲来の国際的な背景や国内政治への影響について理解している。公武関係の変化やユーラシアとの交流などに着目し、鎌倉時代の宗教や文化の特徴について、諸資料から情報を収集して読み取る技能を身につけている。 b：鎌倉時代の生産の発達と商品の流通、東アジア情勢や国内での貨幣経済の発達とその意義について、多面的・多角的に考察し、表現している。宋・元との交流の窓口や貿易の担い手などを視野に入れて、ユーラシアとの交流を多面的・多角的に考察し、表現している。 c：宋・元などユーラシアとの交流と経済や文化への影響について、主体的に追究しようとしている。鎌倉時代の宗教や文化にみられる平安時代からの特徴の継承や差異について、主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査	プリント・ワークシート
		・室町幕府の成立 ・幕府の衰退と庶民の台頭	a：鎌倉幕府滅亡後の政治権力の推移と武家の関係、日明貿易の展開と琉球王国の成立などについて、諸資料から情報を収集して理解している。諸産業や流通、地域経済が成長したことに着目し、諸資料から情報を読み取り、庶民が台頭して村などの自治的な単位が成立したことを理解している。 b：南北朝の動乱などにみられる地域の政治・経済の基盤をめぐる対立や、東アジアの国際情勢の変化とその影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。自治的な村の単位や一揆の組織が成立した要因と背景について、地理的な条件や流通など経済活動との関わりを多面的・多角的に考察し、表現している。 c：武家政権の変容や東アジアの国際情勢の変化などに着目し、諸資料を活用して前後の時代とのつながりを見出そうとしている。室町時代に成立した村の自治的な運営が現代社会における自治とどのように異なるかなど、自身との関わりにおいて課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査	プリント・ワークシート

※令和４年度以降入学生用

３学期	武家社会の成長	・室町文化	a：経済の進展や各地の都市や村の発達、東アジアとの交流などに着目して、室町時代における多様な文化の形成や融合について理解している。 b：室町時代の文化の特徴と、当時の政治や経済の動向との関係を多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。 c：室町時代の宗教や文化の特徴について、鎌倉時代との比較を通じて類似点や差異を見出そうとしている。	定期考査	定期考査	プリント・ワークシート
		・戦国大名の登場	a：守護大名と戦国大名の権力の相違点などについて諸資料から情報を読み取り、戦国時代の大名による領国経営の特徴を理解している。 b：戦国大名による富国強兵策に着目して領国統治の特色を諸資料から考察し、堺や博多など都市の発展にみられる戦国時代の社会の多様性を表現している。 c：15 世紀から 16 世紀にかけて争乱が多発した理由など、戦国時代を中心とする歴史の展開に関わる課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査	プリント・ワークシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度